

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	標題紙、はしがき、目次、プログラム、奥付
他言語論題 Title in other language	Foreword / Contents
著者 / 所属 Author(s)	竹内秀樹 (TAKEUCHI Hideki) / 国立国会図書館調査及び立法考査局長
書名 Title of Book	国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭にどう向き合うか— 科学技術に関する調査プロジェクト報告書
シリーズ Series	調査資料 2025-4 (Research Materials 2025-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2026-2-26
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-952-2
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

科学技術に関する調査プロジェクト2025報告書

国際共同研究と経済安全保障 —閉じた科学の台頭にどう向き合うか—

2026年2月



国立国会図書館
調査及び立法考査局

科学技術に関する調査プロジェクト2025報告書

**国際共同研究と経済安全保障
—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—**



2026年2月

国立国会図書館
調査及び立法考査局

- * 本報告書は、国政審議の参考に供するために取りまとめたものです。
- * 本報告書の記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰^{めいせき}性等の観点からの審査を経たものです。
- * 本報告書の記事のうち、意見にわたる部分は筆者の個人的見解です。
- * 本報告書の記事を全文又は長文にわたり抜粋して転載する場合には、事前に調査及び立法考査局調査企画課（bureau@ndl.go.jp）に御連絡ください。



ファシリテータ 吉岡（小林） 徹氏



パネリスト 浅谷 公威氏



パネリスト 齊藤 孝祐氏



パネリスト 明谷 早映子氏



パネリスト 村上 由紀子氏

はしがき

国立国会図書館の「科学技術に関する調査プロジェクト」は、科学技術政策に関する国会向け調査サービスの一層の充実を図るため、平成 22（2010）年度から調査及び立法考査局において実施しているものです。国会における議論のよりどころとなる正確かつ客観的な情報の提供を目指し、科学技術が関係する各分野の重要な国政課題の中から毎年度選定した特定のテーマについて、外部の学識経験者の方々と連携して調査・分析を行い、その成果を報告書にまとめています。

令和 7（2025）年度のプロジェクトでは、「サーキュラーエコノミー」、「AI時代のロボティクス」及び「国際共同研究と経済安全保障―閉じた科学の台頭にどう向き合うか―」の 3 つのテーマについて調査を実施しました。

このうち「国際共同研究と経済安全保障―閉じた科学の台頭にどう向き合うか―」については、令和 7 年 9 月 26 日にオンラインでシンポジウムを開催しました。国際的な協力の枠組みに基づいた研究の必要性、オープンサイエンスの進展、国家間の政治的・経済的対立が研究活動や人材育成に及ぼす影響等を踏まえ、国際社会との関係を踏まえた我が国の科学技術・イノベーションの在り方について、有識者による議論を通じて展望しました。本報告書は、このシンポジウムの記録集です。

シンポジウムでは、吉岡（小林）徹氏による問題提起の後、議論の前提として、学術情報流通のデータ解析から見える我が国の課題について浅谷公威氏から、国際政治学の視点から見た経済安全保障と科学技術の関係について齊藤孝祐氏から、研究現場におけるリスク管理のあるべき姿について明谷早映子氏から、それぞれ報告していただき、また村上由紀子氏からは 3 名の報告に対してコメントを頂きました。その後、吉岡（小林）氏をファシリテータとして、参加者からの質問への応答も交えつつ、国際的な連携とリスクマネジメントの課題を議論の軸として、パネルディスカッションを行いました。本報告書では、シンポジウムの記録に加えて、吉岡（小林）氏による解説を掲載しています。

本報告書が、国会議員の皆様の調査研究や関連分野に関する国政審議に資するとともに、この問題に関心を寄せる方々に広く活用されることを心から願っております。

令和 8 年 2 月

国立国会図書館 調査及び立法考査局長 竹内 秀樹

国際共同研究と経済安全保障
—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—

目 次

はしがき	竹内 秀樹	
プログラム		1
開会挨拶・趣旨説明	伊藤 克尚	
プレゼンテーション資料		3
報告		7
第Ⅰ部 問題提起・パネリスト報告		
【問題提起】	吉岡（小林） 徹	
プレゼンテーション資料		9
報告		17
【パネリスト報告1】		
大規模学術論文データからみた国際研究エコシステムと日本の立ち位置	浅谷 公威	
プレゼンテーション資料		21
報告		27
【パネリスト報告2】		
国家間関係から科学技術活動をみる—国際政治学の視点—	齊藤 孝祐	
プレゼンテーション資料		31
報告		37
【パネリスト報告3】		
「開かれた科学」のための政策と研究マネジメント	明谷 早映子	
プレゼンテーション資料		43
報告		53
【パネリスト報告4】		
3名の報告へのコメント	村上 由紀子	
プレゼンテーション資料		59
報告		65
第Ⅱ部 パネルディスカッション		
		67
解説		
閉じた科学に日本はどう向き合うべきなのか？—経営戦略論からの整理—	吉岡（小林） 徹	83

Global Research Collaboration and Economic Security: How Should We Respond in the Age of Closed Science?

Contents

Foreword	TAKEUCHI Hideki	
Program		1
Opening and Aim of the Symposium	ITO Yoshitaka	
Presentation		3
Transcript		7
Part I Problem Presentation and Presentations by the Panelists		
Problem Presentation	YOSHIOKA-KOBAYASHI Tohru	
Presentation		9
Transcript		17
Japan's Position in the Global Research Ecosystem:		
Insights from Large-Scale Scholarly Publication Data	ASATANI Kimitaka	
Presentation		21
Transcript		27
Science and Technology in the Political Dynamics among States:		
From the Perspective of International Relations	SAITOU Kousuke	
Presentation		31
Transcript		37
Safeguarding the Openness of Research Environments through Policy and		
Research Management	AKETANI Saeko	
Presentation		43
Transcript		53
Comments on the Three Presentations	MURAKAMI Yukiko	
Presentation		59
Transcript		65
Part II Panel Discussion		
Transcript		67
Commentary		
How Should Japan Respond to Closed Science? A Strategic Management Perspective	YOSHIOKA-KOBAYASHI Tohru	83

科学技術に関する調査プロジェクト 2025 シンポジウム

国際共同研究と経済安全保障

—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—

日時： 令和7年9月26日（金） 14:00～17:00

形式： Web会議システムによるリモート開催

主催： 国立国会図書館 調査及び立法考査局

プログラム

開会挨拶・趣旨説明（伊藤克尚）

問題提起（吉岡（小林）徹）

パネリスト報告

【パネリスト報告1】大規模学術論文データからみた国際研究エコシステムと日本の立ち位置（浅谷公威）

【パネリスト報告2】国家間関係から科学技術活動をみる—国際政治学の視点—（齊藤孝祐）

【パネリスト報告3】「開かれた科学」のための政策と研究マネジメント（明谷早映子）

【パネリスト報告4】3名の報告へのコメント（村上由紀子）

パネルディスカッション

ファシリテータ

吉岡（小林）徹（一橋大学イノベーション研究センター准教授、国立国会図書館客員調査員）
東京大学大学院工学系研究科特任助教、一橋大学イノベーション研究センター講師等を経て、2024年から現職。博士（工学）。横浜国立大学総合学術高等研究院客員准教授、文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官。専門はイノベーション、産学連携、研究マネジメント等。

主な関連著作：『イノベーション&マーケティングの経済学』（共著、中央経済社、2019年）、
「イノベーションマネジメントの定石（連載：第1回～第10回）」『一橋ビジネスレビュー』（2021年～2023年）、
「米中日の科学知識生産と国際共同研究：新興技術分野2分野の現状」
東京大学未来ビジョン研究センター安全保障研究ユニットワーキングペーパー・シリーズ（2022年3月）。

パネリスト

浅谷 公威（東京大学大学院工学系研究科特任准教授）

東京大学大学院工学系研究科特任講師を経て、2025年から現職。博士（工学）。専門は複雑ネットワーク、計算社会科学、サイエンスオブサイエンス。Science of Science 研究会運営委員等を務める。

主な関連著作：「Quantifying advances from basic research to applied research in material science」

Technovation, Volume 135 (共著、2024年7月)、「Quantifying progress in research topics across nations」*Scientific Reports*, Volume 13 (共著、2023年3月)、「研究機関評価のための同時的な研究者移動の分析手法」『情報知識学会誌』(共著、2021年1月)、「人工知能による科学技術研究の加速」『人工知能』(共著、2019年11月)。

齊藤 孝祐 (上智大学総合グローバル学部教授)

横浜国立大学研究推進機構准教授、上智大学総合グローバル学部准教授等を経て、2024年から現職。博士(国際政治経済学)。地経学研究所主任客員研究員。専門は国際関係論、安全保障論、科学技術、イノベーション。

主な関連著作：『経済安全保障と技術優位』(共著、勁草書房、2023年)、「米国のAI規制と対中競争(特集 AIめぐる米中攻防)」『東亜』(2024年11月)、「Can we trust the polls? How emerging technologies affect democracy」*Geoeconomic Briefing*, No.186 (2024年3月)、「米国におけるAI戦略の展開とコンセンサス形成の課題」『軍縮研究』(2022年11月)、「イノベーション・エコシステムの拡大と投資規制—「安全保障」をめぐる価値対立とその変容—」『国際安全保障』(2021年6月)。

明谷 早映子 (東京大学大学院医学系研究科利益相反アドバイザー室長、

東京大学プリンシパルURA、弁護士(第二東京弁護士会所属))

産業技術総合研究所研究員、法律特許事務所勤務を経て、2014年東京大学入職、2018年から現職。博士(理学)、法務博士(専門職)。文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官、滋賀医科大学客員教授、電気通信大学理事のほか、多くの大学等においてアドバイザーを務める。専門はガバナンス、研究のリスク管理、産学連携等。

主な関連著作：「大学の研究インテグリティ確保に向けた対応の課題と利益相反・責務相反マネジメント(特集 研究インテグリティの新たな展開—安全保障上の要請と科学研究活動における大学の自律—)」『研究技術計画』(2023年5月)、「米国における研究のセキュリティ・インテグリティマネジメントの最新動向」『研究技術計画』(2022年3月)。

村上 由紀子 (早稲田大学政治経済学術院教授)

大阪外国語大学(現、大阪大学外国語学部)専任講師、早稲田大学助教授等を経て、1999年から現職。カリフォルニア大学バークレイ校、オックスフォード大学、マサチューセッツ工科大学、マックスプランク研究所、アーヘン工科大学で客員研究員を務めた。博士(経済学)。科学技術・学術審議会人材委員会委員、科学技術・学術政策研究所専門調査員。専門は労働経済学、イノベーション研究。

主な関連著作：『ナレッジワーカーの知識交換ネットワーク』(飛翔舎、2023年)、『グローバル研究開発人材の育成とマネジメント—知識移転とイノベーションの分析—』(編著、中央経済社、2019年)、『人材の国際移動とイノベーション』(NTT出版、2015年)、「研究者の国際移動の知識交換ネットワークへの影響」『研究技術計画』(2020年12月)。

※本報告書の編集作業は、国立国会図書館調査及び立法考査局調査企画課及び文教科学技術課科学技術室が担当した。

調査資料 2025-4
科学技術に関する調査プロジェクト 2025 報告書
国際共同研究と経済安全保障
—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—

令和 8 年 2 月 26 日発行
ISBN 978-4-87582-952-2

編集 国立国会図書館調査及び立法考査局
発行 国立国会図書館

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1 丁目 10 番 1 号
電話 03 (3581) 2331
E-mail bureau@ndl.go.jp

Science and Technology Research Project 2025

Global Research Collaboration and Economic Security: How Should We Respond in the Age of Closed Science?

QRコードから、国立国会図書館
調査及び立法考査局が刊行した、
科学技術に関する調査プロジェクト
の報告書にアクセスできます。



Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library
Tokyo 100-8924, Japan E-mail : bureau@ndl.go.jp

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。